

葛西臨海公園・海浜公園・葛西臨海水族園の開園20周年を記念する

「葛西臨海たんけん隊」事業 初夏の回実施報告

＜後援＞

東京都・江戸川区

東京都公園協会・東京動物園協会・泉陽興業株式会社・読売新聞東京本社

＜特別協賛＞

株式会社 ロッテ

＜協賛＞

三菱商事 株式会社

2009年8月

葛西臨海・環境教育フォーラム

これまでの活動成果

2007年

- ◆葛西臨海地域の活性化を考える会の結成。
- ◆葛西臨海公園の活性化を想定したプランの立案
- ◆東京都建設局・港湾局・東京都公園協会・東京動物園協会・江戸川区など、葛西臨海公園・海浜公園に関係する諸団体へのプロモーション。

2008年

- ◆行政・公園管理者・環境系NPO等のステークホルダーを招待して、現地でのテストプログラムの実施。
- ◆開園20周年記念事業化に向けた関係各所へのプロモーション。
- ◆上記成果を踏まえ、賛同者の拡大に向けたプロモーション。

2009年

- ◆「葛西臨海・環境教育フォーラム」の結成。
- ◆東京都からの後援名義獲得。江戸川区や公園協会、動物園協会なども続く。さらに、ロッテや三菱商事から協賛を獲得。
- ◆事業名を「葛西臨海たんけん隊」と名付ける。
- ◆初夏の回の実施と終了。
- ◆秋の回に向けた諸活動の展開。

2009年度の活動方針

<事業化コンセプト>

開園20周年記念事業の関連プログラム化(東京都/公園協会の後援事業化)による、オープンで社会化されたシステムづくりに挑戦。

<事業化方針>

- ①開園20周年記念事業との連携プログラム化
- ②産官学・市民協働型の実行委員会形式による推進主体の形成。
- ③公園開園記念日(6/1)と水族園開園記念日(10/10)を中心とした事業実施。
- ④実費ベースでの有料参加方式。
⇒子供の参加費は1,000円、大人は2,000円。
- ⑤民間企業の協賛獲得。

2009年度のテーマ構造

海・川と私たちの暮らし

- ◆ クリスタルビューを「江戸前ミュージアム」として展開。東京湾＝「江戸前」を、実物を重視したインタープリテーション手法により解説。
- ◆ 人と海のかかわりを、物質循環の視点から。
- ◆ なぎさを中心に遷移についても学ぶ。

「東京湾・海と川の交響詩」

＝私たちの暮らしと葛西・東京湾・江戸川・荒川

- 「生き物観察」にとどまらず、私たちの暮らしと自然との関係性などを重点的に学ぶ。
- 文明と自然との関係性について、功罪両極を含めて幅広くテーマ設定する。
- 私たちの暮らし、ひいては地球環境に思いをはせる契機となりうるテーマを、葛西との関連性において見出す。

都市と防災

(あるいは「文明と自然、対立と対話」)

- ◆ 観覧車から川を俯瞰し、堤防が張り巡らされた意味を学ぶ。⇒「ゼロメートルサミット」の成果やその意味なども。古くは工業の負の遺産としての地盤沈下、現代的課題としては地球温暖化問題との関連において。
- ◆ 埋め立ての必要性和負の部分。
- ◆ 防災公園としての葛西臨海公園の機能を実感してもらおう。⇒「Eポート」体験なども検討の方向で。

生物多様性

- ◆ 東京湾の生態系
- ◆ 鳥類園・水族館との連携
- ◆ 汽水域の生命の豊かさとその理由／役割
- ◆ 川と海のつながりと流れにみられる生物多様性(淡水生物館の利用)
- ◆ 営巣地、休息地のネットワークが支える、地球規模の多様な渡り鳥の生活

初夏のプログラム実績

(秋のプログラムの日程・内容は検討中)

実施日	参加者数／応募者数	備考
5月14日(木)	28／28	関係者招待日
5月30日(土)	27／29	開校式典実施
5月31日(日)	14／19	雨
6月1日(月)	17／19	南葛西3小招待日
6月6日(土)	17／22	雨
6月7日(日)	23／28	
6月13日(土)	25／28	
6月14日(日)	25／26	
6月20日(土)	22／26	東京海洋大学による船のプログラム
6月21日(日)	20／22	東商エコピープルの日
	220／243	

アンケート結果

Q1.「どちらからお越しでしょうか」(大人)

1. 江戸川区	10%
2. 江戸川区以外の23区	48%
3. 23区以外の東京都	14%
4. 千葉県	16%
5. その他	12%

江戸川区以外で90%
の集客となりました。

Q2.「きょうはどこからきましたか」(子供)

1. 江戸川区	51%
2. 江戸川区以外の東京	33%
3. 東京以外	16%

◆お子さんについては、
学校単位、地域単
位の動員による部
分が大きかったよ
うです。
◆とはいえ、半数が江
戸川区以外というこ
とも注目に値します。
⇒次頁参照

メディア

Q3.「この事業を何でお知りになりましたか」(大人)

1. 読売新聞	25%
2. チラシ	5%
3. 学校からの紹介	8%
4. 友人からの紹介	24%
5. その他	38%

Q3.「たんけんたいのことはどこで知りましたか」(子供)

1. 新聞	24%
2. チラシ	10%
3. 学校	29%
4. ともだち	10%
5. 家族	22%
5. その他	6%

◆告知手段としてのマスメディアの威力(四分の一)を確認。

◆同時に、学校や地域ネットワークへのプロモーションの重要性を再認識。

アンケート結果（小学生）

Q4.「今日は楽しかったですか」

1. ものすごくたのしかった	87%
2. たのしかった	9%
3. ふつう	4%
4. あんまりたのしくなかった	0%
5. たのしくなかった	0%

96%の小学生が
ご評価くださいました

Q6.「こういうプログラムがあったら、また来てくれますか」

1. はい	99%
2. いいえ	1%

99%の小学生が
ご評価くださいました

アンケート結果（大人）

Q 3.「このプログラムの内容や進行方法について」

- | | |
|------------|----|
| 1. 良くない | 1% |
| 2. あまり良くない | 1% |
| 3. 普通 | 3% |

- | | |
|----------|-----|
| 4. 良い | 17% |
| 5. とても良い | 77% |

94%の方が
ご評価くださいました

Q4.「大人2000円、子ども1000円という料金設定について」

- | | |
|----------|-----|
| 1. 高い | 3% |
| 2. 安くはない | 12% |

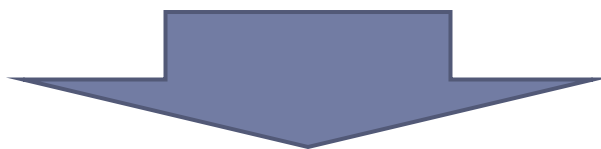
- | | |
|----------|-----|
| 3. ふつう | 50% |
| 4. 安い | 19% |
| 5. とても安い | 17% |

価格相応の体験価値は提供できたと考えます。

アンケート結果

今日のプログラムで一番楽しかったプログラムは何ですか？

大人	なぎさでの生物観察	47%
	水族園	20%
	鳥類園	20%
小学生	なぎさたんけん隊	41%
	大観覧車	20%
	水族園	18%
	鳥類園	15%



大人も子どもも、なぎさで実際に生き物を自分で採って、観察することが一番面白かった。

⇒体験することの重要性を再確認。